

# 日本で唯一?! 城内の造酒屋敷と 土塁の調査

仙台市教育委員会文化財課 平成30年11月24日(土)

## 調査の概要

遺跡名 国史跡仙台北城跡(造酒屋敷跡・三の丸土塁)  
 所在地 仙台市青葉区川内地区  
 調査原因 国庫補助による遺構確認調査  
 調査面積 造酒屋敷跡 1区:約270㎡ 2区:約60㎡  
 土塁 約20㎡  
 調査主体 仙台市教育委員会(担当:文化財課)  
 調査期間 平成30年6月~11月末日

仙台市教育委員会は、仙台北城跡の整備に向け、造酒屋敷跡と三の丸土塁の2か所で発掘調査を行っています。造酒屋敷跡の調査は、平成20年度から行っており、震災で中断しましたが、今回で6回目となります。今年は、屋敷内における建物跡の範囲確認や屋敷地北辺部の遺構確認などを目的として調査を行いました。4回目となる三の丸土塁の調査は、堀(長沼)に面した部分で、塀跡などの有無を確認するために行いました。

## 二つの大手道と造酒屋敷の謎

伊達政宗が仙台北城を築城した当初、本丸へと至る大手道(登城路)は、現在の追廻から長沼の南側を通過して、巽門、清水門、沢門を抜ける、道幅がせまく屈曲の多いルートであったと考えられています。これは、戦に備え防御性を重視した山城としての大手道です(図1の青線)。一方、大町から大橋を渡り、大手門、中門を通るルートは、その後につくられた近世城郭としての威容や機能性を重視した大手道です(図1の黄線)。

造酒屋敷は、このうち築城期の大手道沿いにつくられました(図1★)。そもそも、酒をつくる職人が城内に屋敷をもつこと自体、全国的にも珍しいことです。その上もし戦となれば、この場所は追廻側から攻め込んだ敵を最初に食い止めるための防御上重要な場所となります。政宗は、何故このような場所に他国から呼んだ職人を住ませ、酒をつくらせたのでしょうか? 仙台北城の大きな謎の一つです。



図1 政宗時代の屋敷と二つの大手道  
 奥州仙台北城絵図「正保城絵図」(正保2[1645]年)  
 仙台市博物館 所蔵 を元に作成

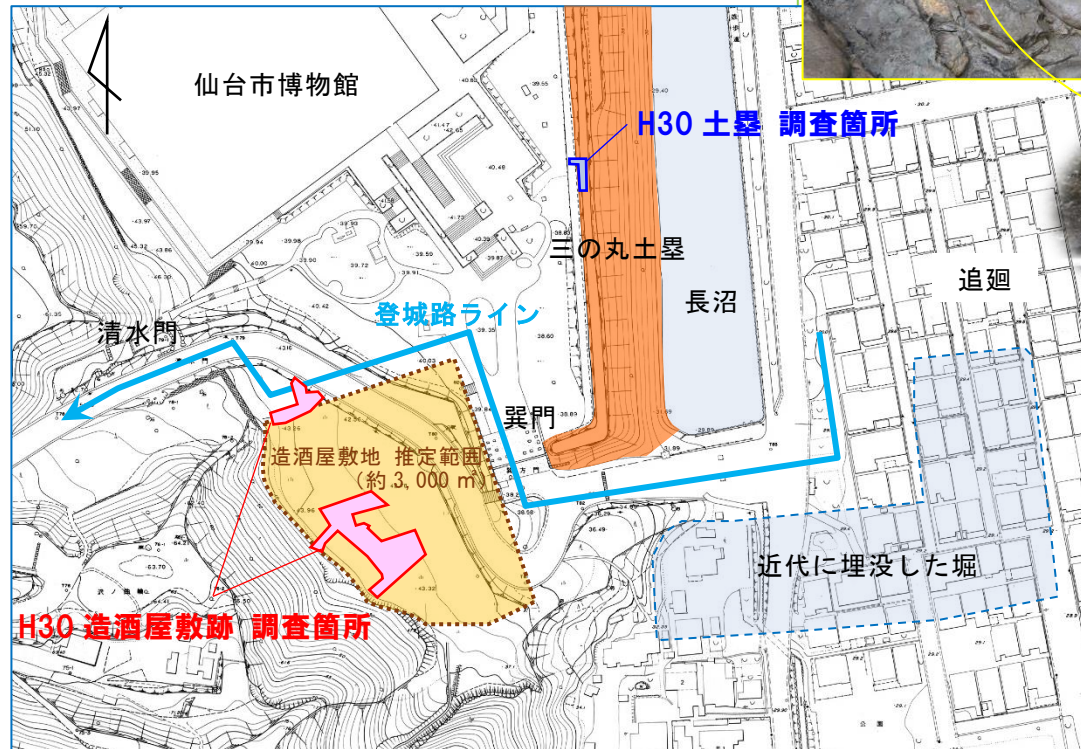


図2 造酒屋敷地の推定範囲と今年度調査箇所 (S=1/2,000)

## 造酒屋敷の概要と調査成果

伊達政宗は、徳川家の重臣 柳生宗矩りゅうせいむねのりからの紹介で、慶長13(1608)年に大和国から又右衛門という職人を招き、城内の一角に屋敷を与え酒造りにあたらせました。又右衛門は、出身地にちなんで「榎森」の苗字を名乗ることを許され、以後、榎森家は明治9(1876)年に廃業するまで、約270年間、「御酒屋」として藩のための酒を造り続けました。

今回の調査では、酒造りに関わる建物の柱跡とみられる礎石跡を2基確認しました(1区)。これにより、屋敷内にあった建物の正確な位置や規模を知る重要な手がかりが得られました。また、屋敷地の北側(2区)では、現地表から約1.2m下で、江戸時代までさかのぼる地表面を確認しました。これは、その見つかった位置から登城路の路面である可能性があります。さらに、南北にのびる石組の溝跡を確認しました。造酒屋敷地内や登城路の排水に関わる遺構と考えられます。

またえもん



政宗様の命で、大和(現在の奈良県)から仙台にやってきたのは三十四才の時だよ。しかし、まさか城内に屋敷を頂けるなんて、ほんと驚いたね。

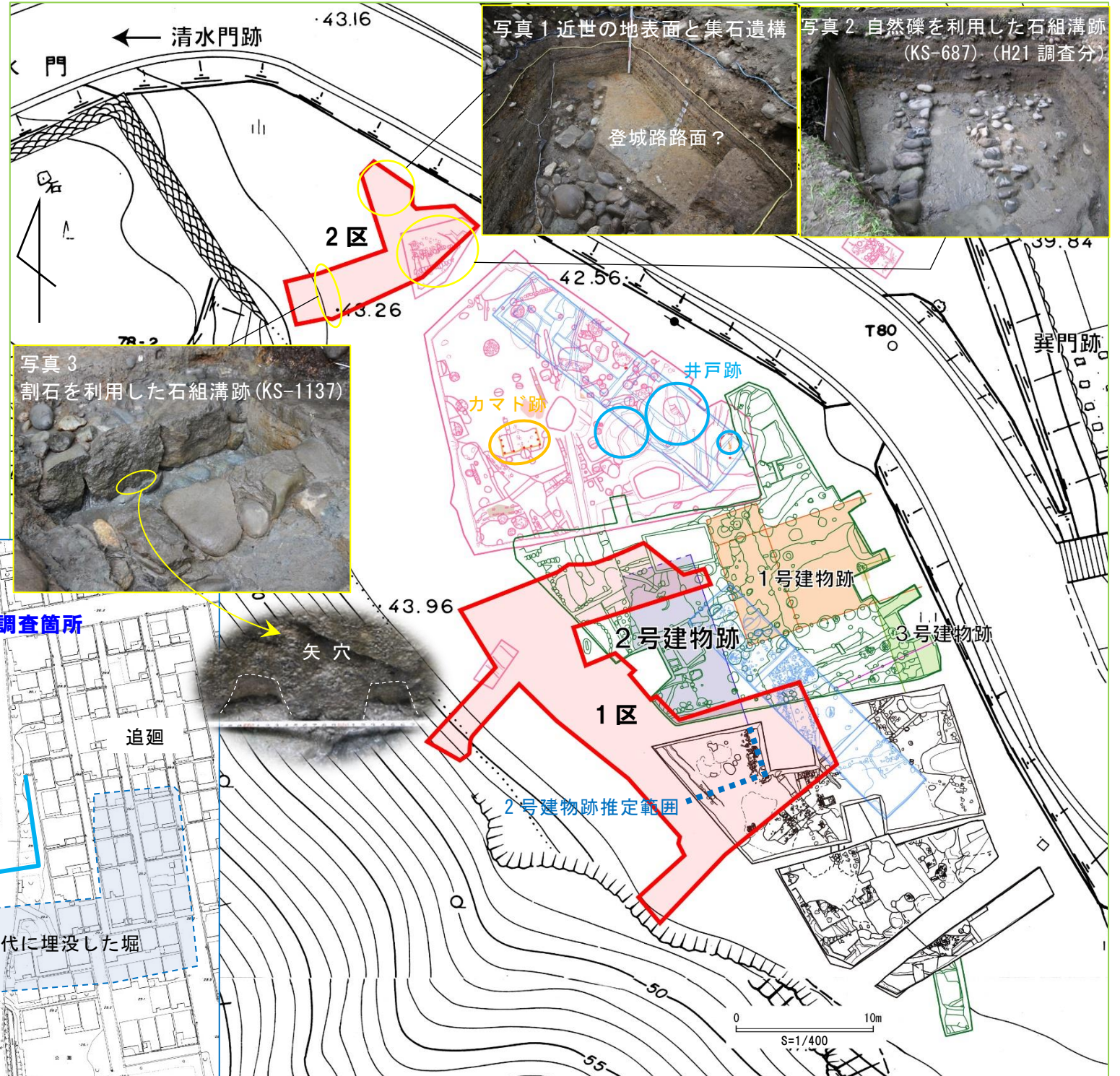


図3 造酒屋敷跡の全体遺構平面図 (S=1/400)

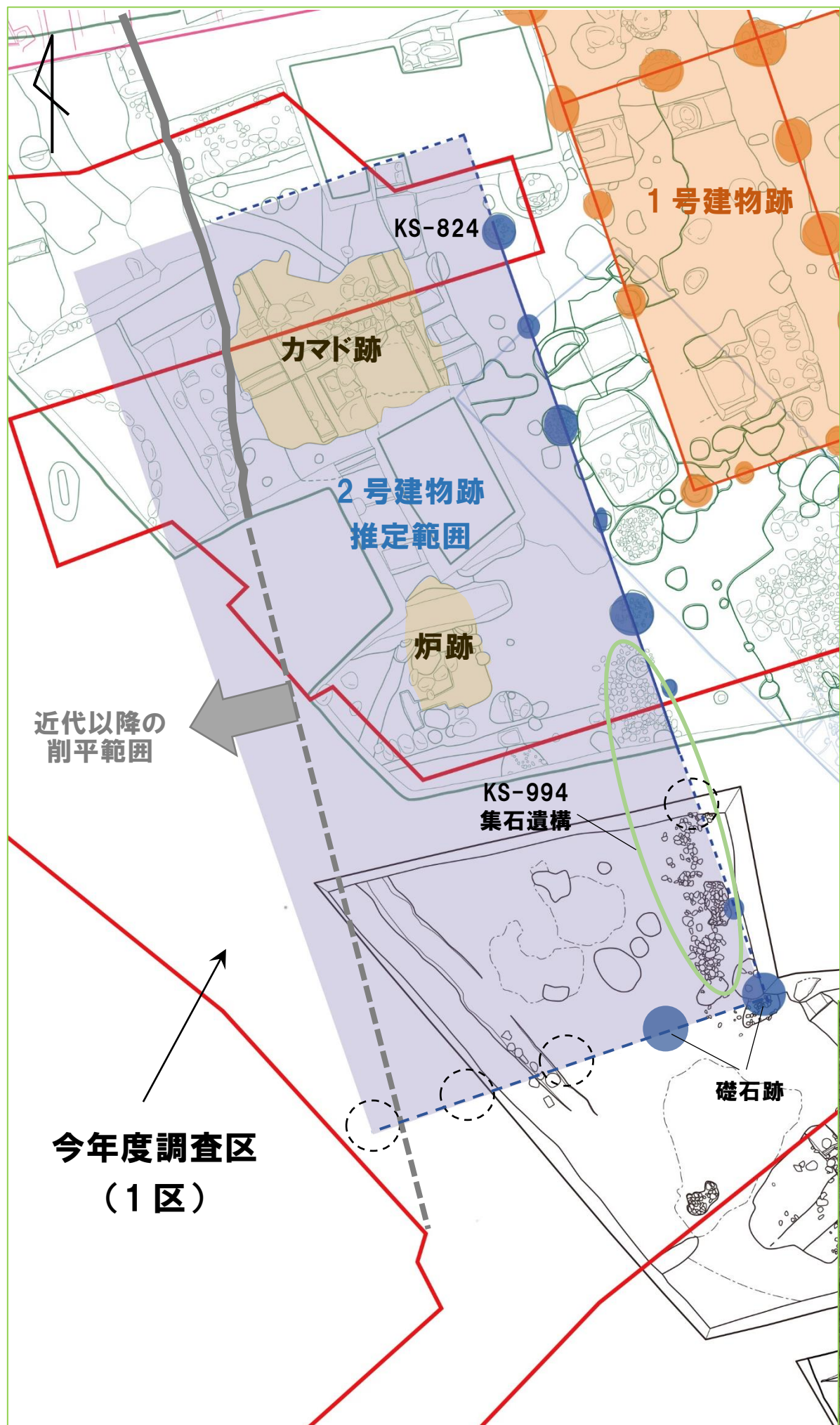


図4 2号建物跡平面図 (S=1/100)

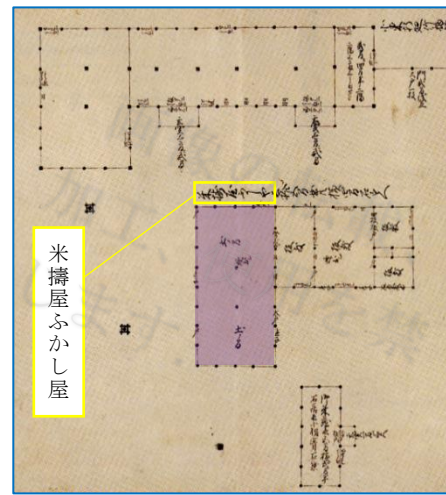


図5 「仙台藩封内神社仏閣等  
作事方役所修繕ニ属スル場所調」酒蔵  
寛文～元禄年間 (1661～1704)  
宮城県図書館 所蔵

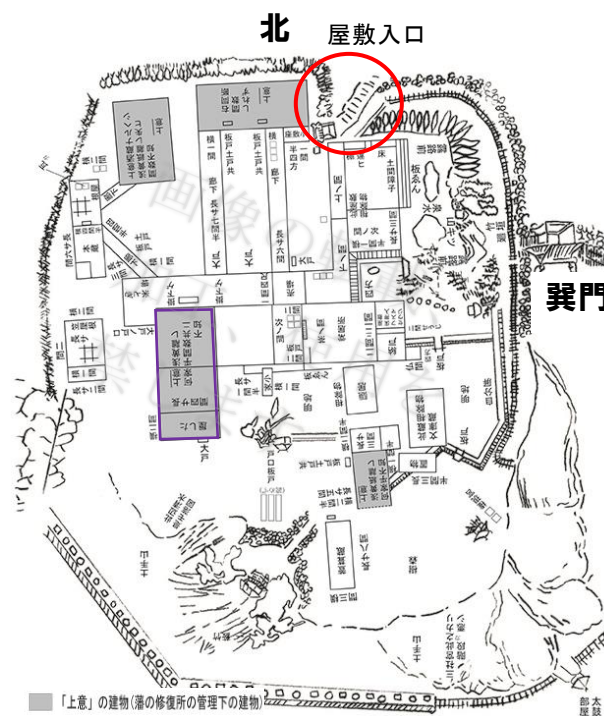


図7 「仙台城内榎森御酒屋之図」  
〔伊達家史叢談 卷之五〕、大正10<1921>年より作成



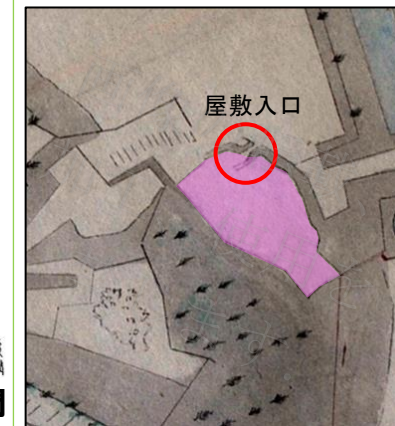
① 「奥州仙台城絵図」  
正保2 (1645) 年  
仙台市博物館 所蔵



② 「仙台城下絵図」  
寛文4 (1664) 年  
宮城県図書館 所蔵



③ 「奥州仙台城并城下絵図」  
天和2 (1682) 年  
宮城県図書館 所蔵



④ 「仙台城北方隣地図並青葉城  
測量図 仙台旧青葉城之図」  
明治9 (1876) 年  
宮城県公文書館 所蔵



⑤ 明治38 (1905) 年測図  
2万分の1地形図  
国土地理院



⑥ 「最新版市街町村及番地入仙  
台市全図」  
大正元 (1912) 年  
(高倉他「絵図・地図で見る仙  
台」1994より)

図6 絵図・地図にみる造酒屋敷地の変遷 (造酒屋敷地)



写真4 礎石跡と集石遺構

### 三の丸土塁の調査成果

三の丸土塁の調査では、表土直下で自然礫の集石を2か所で確認しました。その間隔は約3.6mで、1間を1.8mとすれば2間の長さとなります。これらは塀の柱跡となる可能性も考えられますが、2か所の集石には明確な掘り込みがみられず、さらに検討する必要があります。一部長沼側に調査区を拡張して塀を支える控柱となるかどうか調べましたが、特に明確な遺構は確認できませんでした。

また、一部下層の調査を行った部分では、昨年度調査と同様のかたく締まった土塁の積み土を確認しました。



写真5 三の丸土塁調査区全景